

# 福島退公連 会 報

発行日 令和 5 年(2023年) 7 月20日  
 発行所 室 井 勝  
 〒960-8043 福島市中町 5-21(消防会館)  
 TEL・FAX 024(522)0612  
 URL <https://fukushima-taikouren.com>

## 令和 5 年度支部連絡会議開催

〈日 時〉令和 5 年 5 月22日(月)午後1時 〈場 所〉郡山市 ビッグパレットふくしま

令和 5 年度の支部連絡会議が県本部役員と各支部の事務局長、組織部長、女性部長が出席し開催されました。

会長挨拶の後、全体会、続いて事務局長・組織部長会と女性部長会が分かれて行われました。



### 〈会長挨拶〉

コロナ禍で3年間各支部の総会等に出席出来ませんでした。今年度は3支部の総会に出席させて頂きました。

特にお願いしたいことを申し上げます。

#### 1. 退公連活動の正常化・通常化

今年度は退公連活動を正常に戻して頂きたいと思えます。年金などの研修会や研修旅行などの活動を維持していただきたいと思えます。

#### 2. 日公連・退公連の要望活動

日公連の今年度の要望事項の第一は、現職の方々が職務に専念できる環境整備についての配慮、第二は公的年金制度、後期高齢者医療制度、介護保険制度の改革に当たっては、高齢者に過重な負担にならないような制度改革など5項目です。

退公連としては、地元国会議員への要望活動を8月頃に各支部にお願いします。

#### 3. 会員の確保

令和 4 年度は、各支部のおかげで119名の新会員を迎えることが出来ました。退会される方や亡くられる方等がおられたので、減少傾向にあります。

最近の退公連活動が厳しい最大の理由は会員の減少です。財政的にも諸活動においてもそうです。

来年の3月には、定年が61歳となり定年退職者がいなくなりますので、すでに退職されて入会されていない方への勧誘の工夫と、現会員の方には継続されるよう知恵を絞っていきたいと思いま

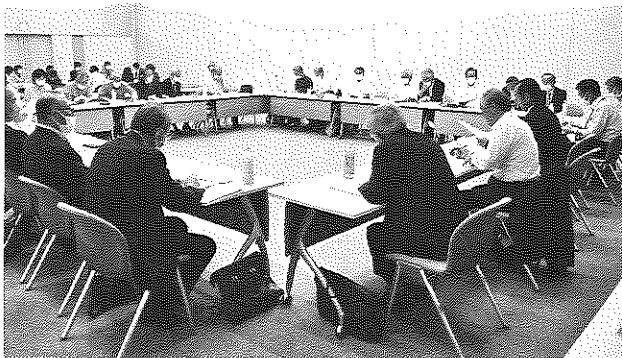
す。

会員の皆様には元気で活動していただくことが一番です。退公連の大きな力になっている社会貢献活動等お願いし挨拶と致します。

#### 【全体会】

日公連・退公連の令和 5 年度の事業計画・要望事項、最近の公的年金制度の現状、令和 4 年度の「各支部活動の記録」、ホームページの開設等についての説明と協議が行われました。

#### 【分科会 1 事務局長・組織部長会】



各支部の現状と課題を踏まえ退公連活動と組織の拡充・強化等についての協議を通して意見交換が行われました。

各支部ともコロナ前の行事・活動に近づけようと計画していますが難しい面も多々出てきているとのことです。共通して挙げられたのは、①懇親会や米寿のお祝いなど、飲食を共にすることは難しいこと ②コロナ禍で亡くなられた方、退会者の増加、新入会員の減少が相次ぎ、会員数が大幅に減少したこと ③地区(方部)役員の高齢化が進む一方、若手加入者が少なく引き継ぎができないこと ④新聞配達や集金事務など、地区(方部)役員の不在から郵送料が増加し会計を圧迫していること等です。

そんな困難な状況ですが、各支部とも工夫・改善を図り前向きに推進していきたいとのことでした。以下に主な取り組みを紹介します。

- ①行事の精選化 ②懇親会での飲酒はやめる
- ③大型バスから小型バスやタクシーに変更して実施 ④参加者が増えるように土日に実施 ⑤幟を使って活動をPR ⑥新聞に取り上げてもらい広報 ⑦作品展やステージ発表など交流活動の充実等です。

〈次ページに続く〉

次に最大の課題である会員の勧誘については、  
①粘り強く、繰り返し勧誘 ②入会申込書を配り、可否を文書で確認し活用 ③積極的に職場を訪問し、退公連への勧誘を強化 ④支部の新聞やウェブページで活動を紹介 ⑤学校活動への支援を再開 ⑥花を学校や地域に送る ⑦再任用教員への勧誘強化 ⑧他支部への退職異動者を連携して勧誘 等が挙げられました。

人間関係を大切にしながら、一人ではなく複数の会員から、会の意義や楽しさ、やりがいや伝わるようにしていきたいと思えます。

最後に県への要望として、HPの周知・活用推進、メール等での事務連絡による経費節減、退公連活動のPRの強化(新聞掲載・幟旗の配布)、日公連新聞の発行回数の削減要望等貴重な意見がありました。

### [分科会2 女性部長会]



今年度の本県女性部のサブテーマは、昨年同様「爽やかな笑顔とあいさつ、お友達との絆を強め、大きな輪に」です。このサブテーマのもと、各支部の現状・課題等について協議が行われました。

自己紹介とともに、当日配布された「各支部活動の記録」を基に昨年度の活動や今年度計画している活動、また日ごろ感じていることについて発表されました。

- ・3年間コロナ禍のためほとんど活動できなかったり、計画しても中止になったりした。
- ・世代交代がうまくいっていないため、以前の活動が継承されていない。
- ・今年度、研修旅行を計画しているが、高年齢の会員が多く実施できるかどうか難しい。など悩みが多い状況の中でも、福祉部との共催、女性だけでなく男性会員にも声をかけ参加してもらったり、口コミで会員外の方にも参加してもらおう等、工夫して活動が進められています。

女性部の会報発行や、絵手紙教室、女性部学習会、パークゴルフ、グランドゴルフ、健康教室、体幹トレーニング教室、昼食会、ヨガ教室、研修旅行など退公連に入っていてよかったと思ってもらえるような活動が計画されています。

また学習会や研修会などの講師について、各市役所や消費者センターなどでボランティアの講師登録の制度があることなどの情報交換がされました。

各支部での共通の課題として会員の減少と若い会員不足があり、今何とかしないと、何か新しく手立てを考えていかないと、高齢化してますます会員減になってしまう危機感をひしひしと感じています。そういうなかで、夫婦のどちらかだけが会員の方々に、夫婦で会員になっていただくような活動、特に現職の時に管理職だった方にはぜひ配偶者の方にも会員になっていただくよう勧めたいという意見がありました。

最後に、福祉部長から、「女性部は退公連の要だ」という言葉で協議を閉じました。

## コロナ禍でも工夫して実施しました

### 令和4年度 各支部活動の記録から

新型コロナウイルスの感染拡大は、これまでの生活様式を一変させ、とりわけ高齢者にとっては大変な3年間でした。このような中でも、各支部では感染に注意し、工夫しながら必要な活動はやりきることができました。コロナ禍3年目(令和4年度)の各支部活動の主な活動名について、報告致します。

感染症の類型も2類から5類に移行しましたが、社会活動全体がコロナ前に回復するにはまだ時間がかかりそうです。そのような中でも退公連各支部は、支部総会を開催したり、学習会を開催したりと、コロナ前の活動に戻つつあります。これから秋には、会員の皆様の参加をお待ちし、支部では様々な活動を計画しています。活動に参加し交流を深め、心も体もリフレッシュしましょう。

#### ○ 懇親会や施設訪問はできなくても、継続事業はやり切りました

絵手紙の発信 タオルの贈呈 友愛訪問 賀寿表彰 花苗を学校に贈呈 様々な学校支援

#### ○ コロナ禍だからこそ実施しました

パークゴルフ 健康教室 健康長寿の秘訣・筋力アップ体操 ボウリング  
スポーツチャンバラ 空手体験 冬の運動

#### ○ 感染に注意して実施しました

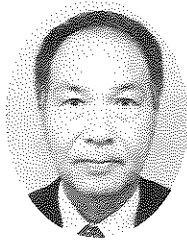
研修旅行 研修会(年金 写経 レクリエーション 絵手紙の書き方 水墨画教室 ヘルシークッキング 小物づくり ジャムづくり 寄せ植え) 懇親会 講演会

※詳細については各支部に「各支部活動の記録」として送付しています。

その“わ”

# 小さな支部ゆえの繋がりを大切に

石川支部 組織部長 舘 初 浩

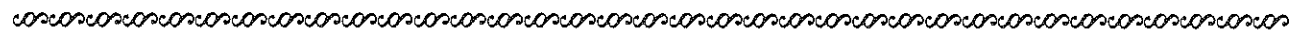


先日、令和5年度の支部連絡会議に出席し、各支部の組織強化の現状とその取り組みについて聞いてまいりました。石川支部を客観的に見取る機会を得たことから、支部の現状と今後について若干述べさせていただきます。

石川支部も、他支部同様緩やかではありますが、会員数の減少が進んでおります。現在の会員数は、130名で、昨年より4名減（死亡6名、退会4名、新入会6名）であります。コロナ禍における3年間の活動自粛と、対面での勧誘が難しかったことや再任用等を理由に、会の存在に共感しつつも入会を見合わせる傾向は本地区にもあります。しかし、今年度は8名の対象者中、再任用者を含め6名の方に入会していただきました。

勧誘に際しては、退職が予定されている先生方の情報を収集し、役員会の中でかつての同僚や交流のある方を担当にあて、退公連の資料に地区と

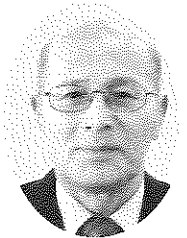
しての活動内容を添え、直接お会いして入会を勧めました。このような取り組みは、どの支部においても実施していることではと思いますが、大所帯ではない小さな支部だからこそその強みがあります。石川地区は、児童生徒の激減による統廃合が進み、現在の小中学校数は13校で、地区出身者同士の接点が多い現状にあります。そのため入会に際し、退公連の意義と活動について理解してというよりは、かつての同僚からの誘いによる入会が実情かと思われまます。(65才までの会費は減額しております。)また、再任用者には、退職は、人生の特別な節目ということ、強く伝えることにしております。そして、賛助金の拠出についてですが、各校の校長先生を通じた依頼により、現職者のほとんどが賛助会員として協力くださっています。賛助会員として、おぼろげではありますが退職者との繋がりを持ち、退職後も退公連を通して人の繋がりをつないでいくという流れが、我が石川地区に一番合った強化策と考えております。



支部  
これから

# アフターコロナでの退公連活動

白河支部長 佐藤 正 弘



長かったコロナのトンネルを抜け、様々な活動が復活できると喜んでいますが、3年間の空白が私達に与えた影響はあまりにも大きいことに戸惑っています。そんなもどかしさを感じながらも4月の総会は久しぶりに対面で行い、来賓等を制限したり、表彰も地区の委員からの伝達でお願いするなど参加者限定の総会にしました。

平成18年に366名であった会員数が令和4年末には268名となり、16年の間に100名近くの会員が減少。会員減をさらに加速させる制度が今年からの退職年齢の段階的引き上げです。

そのような状況の中、6月には新しいメンバーを加えた臨時会員会を開催し、会員の連携と所属意識を取り戻すために主催事業を工夫し、参加奨励と活動再開のPRなど、これからの支部の活動について検討を重ねました。

9月に実施予定の会員研修会では会津三島町から講師を招いて「創作活動」を予定しています。紙を使った立体造形作り活動を指導して頂く予定

でどんな作品ができるか今から楽しみです。

3年間実施出来なかった「親睦旅行」を秋に復活させ、久しぶりに会員同士の親睦と交流の場を復活させたいと考えています。

年末に実施している90歳以上の会員宅への「友愛訪問」では絵手紙や手作りの折り紙などを持参し、元気な様子を確認しています。毎年、訪問した高齢会員から感謝のことばを頂いています。

超高齢・人口減少社会に突入しています。本支部では退公連の大きな目標である年金制度の充実を求める活動や会員の「生きがい」づくりのため社会や人のためにできる貢献活動をこれからも無理なく、楽しく進めていきたいと考えています。



<年金情報コーナー>

全世代型社会保障とは何?

昨年12月、政府が設置した「全世代型社会保障構築会議」から報告書が出されました。

その「全世代型社会保障」とは何なのかです。

報告書では、まず、「日本は、本格的な『少子高齢化・人口減少時代』を迎えようとして」いるとしています。

このため「大胆な少子化対策によって人口減少の流れを変えると同時に、これからも続く超高齢社会に備えて、社会の持続可能性を高める対応を強化」していくとしています。

そのうえで、「全世代型社会保障」とは、全ての世代にとって安心できる社会保障であり、年齢に関わりなく、全ての国民が、その能力に応じて負担し、支え合うことによって、それぞれの人生のステージに応じて、必要な保障がバランスよく提供されることを目指すものとしています。

さらに、「社会保障を支えるのは若い世代であり、高齢者は支えられる世代である」との固定観念を払しょくし、「全世代で社会保障を支え、また社会保障は全世代を支える」と指摘しています。

+++++【事務局だより】+++++

今年度、新たに支部長に就任された方です。

- 岩瀬支部 佐々木幸治氏 (前副支部長)
- 会津坂下支部 佐藤孝信氏 (前事務局長)
- 相馬支部 浜名俊明氏 (前副支部長)

福島県退職公務員連盟では、ホームページを開設しました。

お知らせや各支部での退公連の活動状況などが確認いただけるようになりました。

URL <https://fukushima-taikouren.com>



《百歳万歳》

ご長寿おめでとうございます。  
百歳賀寿を受けられた方です。

〔伊達支部〕 奥山敏夫様  
大正10年12月5日生まれ

〔福島支部〕 安部三郎様  
大正12年4月25日生まれ

〔岩瀬支部〕 平岩敏雄様  
大正11年5月11日生まれ

編集後記

令和5年度も3か月が過ぎました。各支部とも新体制で順調なスタートが切れ、活動も軌道に乗ってきたことと思います。

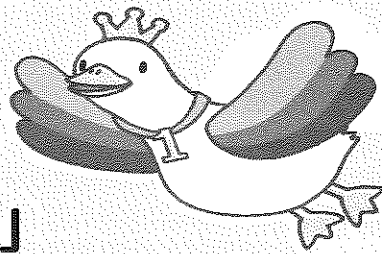
5月4日にコロナが2類から5類に移行したとは言え、安心はできません。十分気を付けていただきたいと思います。以前の生活に戻るにはまだまだ時間がかかりそうです。

今年もまた暑い夏がやってきます。暑さに負けずに元気に乗り切りたいと思います。

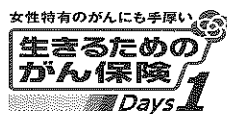
No.1 アフラック がん保険・医療保険 保有契約件数

令和4年版 インシュアランス生命保険統計号

これからの  
医療の進歩を見据えた  
「生きるためのがん保険」



◎商品およびサービスの詳細は「パンフレット」「契約概要」などをご確認ください。



<募集代理店> (アフラックは代理店制度を採用しております)

三井住友トラスト・ライフパートナーズ株式会社

TEL 03-6837-6236 FAX 03-3233-6754

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-11-1

<引受保険会社>

「生きる」を創る。



アフラック  
東京第一法人営業部  
〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-6-1  
丸の内センタービル19F  
Tel.03-6367-3666 Fax.03-3218-3887  
AFツール-2022-0411-2303005 11月16日